

現代日本論概論「現代日本における職業」

## 第11講 社会的不平等と職業

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 近代化の進展と「平等」に関する社会科学研究

### 1 近代化 (modernization) とは

政治面の変化: 国民国家; 民主化;

経済面の変化: 分業と市場経済の発達; 産業化; 雇用労働者化

生活様式の変化: 合理化; 都市化; 学校教育; 家族の機能縮小

近代化前半の資本主義社会では、自由競争が重視され、労働者の窮乏化が進む マルクス主義的な階級観の土台

### 2 20世紀における重要な変化 (第4講資料参照)

- 第1次世界大戦 (1914–1918) とロシア革命 (1917)
- 世界大恐慌 (1929) とアメリカのニューディール政策 (1933–1939)

経済における国家の役割が増大し、「混合経済」と呼ばれる経済体制が確立する。

20世紀後半には「福祉国家」化が進み、多くの国で医療保険・年金制度が整備される 基本的人権としての「社会権」の確立

### 3 階級論の衰退と「新しい不平等」

近代化の後半局面では、階級による不平等は「目立たなく」なってくる

- 所有と経営の分離
- 新中間階級の増大

現在の階級論の中心は、階級構造それ自体というよりは、「機会の不平等」の探求に移っている 何を「個人の責任」とみなすかの政治的闘争

他方で、民族や性別といった「生得的」要因による不平等への関心が増大している 階級構造というよりは家族、教育、国家の問題

### 文献

今田 高俊 (1989) 『社会階層と政治』 東京大学出版会.

武田 万理子 (1997) 「女性と法：雇用を中心に」 渡辺和子 (編) 『アメリカ研究とジェンダー』 世界思想社, pp. 152–166 .

Samuelson, P. A. (1974) 『経済学』 (都留重人訳; 原書第9版) 岩波書店 .